

平成20年度  
寺山修司フォーラム  
**空には本**

寺山修司が築いた「言葉の城」

●時＝2008年8月3日(日)

午後2時開演

●所＝寺山修司記念館

屋外多目的スペース

●入場無料

●音楽：三沢市教育委員会

●共催：寺山修司五周年

●協力：テラヤマ・ワールド

●主催：三沢市教育委員会  
〒111-0211 三沢市三沢1-1-1 TEL: 0176-69-3434 FAX: 0176-69-3444 E-mail: shuji\_terayama@terayama.or.jp

【第1部】

トーク

「テラヤマ・ワールドの魅力」

ゲスト＝三上博史(俳優)

MC＝寺山修司(プロデューサー)

寺山修司が監演した映画「草迷宮」の

オーディオブックが、主演デビューを

果たした三上博史です。

その他、映画・テレビ・舞台・コンサート

で大活躍し、今や人気絶頂の三上博史

さんが三沢に初登場します。

また、九條幸子さんがアメリカでの

奥座敷を通して変換していた「アキラ

マ・ワールド」の秘密を探ります。

【第2部】

三上博史ライブ鑑賞「空には本」



出演・音楽＝三上博史(俳優)

音楽協力・演奏＝エミエシスターズ(歌手)

大人数の俳優・三上博史さんが、先述

の寺山修司の俳優・監督・訳の鑑賞に

応じ、CDを発売しました。

今後の三沢では初めてのとなるライブ

鑑賞となります。

「アメリカ村」を念頭にした山崎の舞臺

の音楽と三上博史さんの清鮮な感性の

セッションは必見です。

【第3部】

青少年のための

「第1回寺山修司五周年・俳句大会」

表彰式と入賞作品発表

審判委員＝原沢久美(俳句研究家)

三上博史(俳優・俳優)

岡久津清司(俳人)

原沢を司が、さらに成果を上げつつ

ある俳句の大会。

賞状授与から多くの傑作、秀作が発表

されます。

夕焼けややけにやさしい下り坂

加7中學生の部、寺山修司賞作

村上隆樹(高松市立南中学校)



三沢市対施行50周年記念/寺山修司記念館開館11周年記念

テラヤマ・ワールド  
2008 in 三沢

●会場(アクリル) ニューヨーク公園内の市民広場

●開演・観劇料金(1976円)

平成20年度  
寺山修司記念館特別企画展  
寺山修司とアメリカ  
三沢市「アメリカ村」オープン記念

●会期＝2008年6月3日(日)から1年間

●会場＝寺山修司記念館エキジビットホール

●通常の料金でご覧いただけます。

●一般＝200円(中学生208以上200円)

●高校生＝100円

●小学生＝50円

●観覧は無料(自由席)となります。

●寺山修司とアメリカ

寺山の身元として活躍した寺山修司が初めて「外国」と出会い、その影響を受けた創作の歴史「アメリカ」を、現代の三沢市に再現しました。現代三沢市の発展を支えた三沢、ビートルズの三沢、三沢からニューヨークへと旅した寺山修司の道が再現されています。

●展示内容概要

[1] 少年・寺山修司が初めて「アメリカ」

[2] アメリカ前哨地三沢

[3] 「秘蔵のマリ」 ニューヨーク公演

[4] アメリカ前哨地の再現と展示

[5] 再現劇、アメリカを再現！

**寺山修司記念館**  
Shuji Terayama Museum

## 平成20年度・寺山修司記念館特別企画展 寺山修司とアメリカ 三沢市「アメリカ村」オープン記念

●会期＝2008年8月3日（日）から1年間

●会場＝寺山修司記念館エキジビットホール

●観覧の料金はご来館されます。

一般＝300円（団体20名以上200円） 高大生＝100円 小中学生＝50円

毎週土曜日は市内外を問わず、小中学生のみ無料となります。

世界的な動向として注目した寺山修司が初めて「外国」と出会い、その影響を強く受けたのは「アメリカ」でした。

1949年による再婚公演で身ともに抜け出され、三沢（当時は）へと移り、転機によるアメリカへの海外渡航を目的とした最初の留学の地でした。

その後、米軍基地で働く母を通じて「アメリカ文化」の洗礼を受け、同じくは、他の部々に進出していち早くアメリカにおける海外状況や文化状況に目を向け、そのエッセンスを自身の創作活動の中核に据えました。

寺山修司にとってアメリカは、技術や文化が最先端の国であるとともに、自身の創作が積極的に交響する「特別空間」だったのです。

2008年、国際文化都市をめざす三沢市に「アメリカ村」がオープンします。その記念すべき年を今年の特展の寺山修司記念館の特別企画展では、世界に向けて発信した寺山修司とテラヤ・ワールドにおける「アメリカの影響」を探っていきます。

「父を殺したアメリカ」と言い、「ニューヨークではいたるところが破壊である」と書いた寺山修司は、紙巻画にいったい何を描いていたのでしょうか……？ 渾身の筆圧から湧き出たミス・ワールド画のように、三沢からニューヨークへ続いた寺山修司の魂がその展覧会を遊みます。

### ●展示構成

#### [1] 少年・寺山修司が出会った「アメリカ」

1945年7月28日、「私の少年時代の最も特別な地獄」と題する再婚前で乗り出され、母とともに父の乗客である古船（三沢）の島立船へ身を乗せることとなる寺山少年。

ヤクを運送してきたアメリカ軍・ワイルドキャット（山崎）感嘆との出会いから、ベースキャンプに移動する母を通じて、ハンバーグやココア、ロックンロール、色紙などといった「アメリカ文化」に浸っていく様子や資料で紹介されます。また、父の戦死後に、「父を殺したアメリカ」への嫉妬した思いを自作詩「アメリカよ」などで描写。

さらに、中学・高校時代に身を置けた青春時代の映画館で観賞したアメリカ映画の情景なども見られます。

#### [2] アメリカ前衛演劇振興

寺山修司がアメリカに初めて着ったのは、1967年3月、映画「嵐たち」の撮影でニューヨークを訪れ、「内陸のアメリカ」というエッセイを書いた時と見られます。その後、それは、作家ネヴィン・オルグレンの小説やモダンジャズなどによって



●「マリリン・ローラー」(マリリン・ローラー) (1959年制作)

アメリカの光と影を捉えていた。

そして、翌1968年春、アメリカ志向の期待によるニューヨークを中心としたアメリカ前衛演劇祭では、オフ・オフ・ブロードウェイ後の音楽の演劇シーンとアメリカ文化を自賞し、詳細に分析、演劇「時代はワーカスの旗のもとで」や演劇「アメリカ地獄めぐり」などによってエッセイや切り口の「アメリカ観」を表現します。ここでは自作の旅行ノートや推理考案子などを購入したアンディ・ウォーホルの映画「マリリン・モンロー」などを展示して寺山修司の「アメリカ観」を再認識いたします。

#### [3] 「毛皮のマリー」ニューヨーク公演

その後の寺山修司とアメリカの関わりは、

1969年にアメリカで上演した「クック・ミュージカル（ヘア）」の日本舞台化（構成を擔って完成させますが、編者サイドとのトラブルから公演）やネヴィン・オルグレンとの交流、テレビ・ドキュメンタリー「あなたも「アメリカ」だ」、東京世界の音楽祭「祭典・赤山天夫を招いた「内なるアメリカ」」などが挙げられます。

そして、1970年7月、寺山修司はニューヨークのカフェ・ラ・マダムで、自作「毛皮のマリー」をアメリカ人俳優を使って上演し、初めてのアメリカ公演を果たします。

ここでは、寺山修司「ヘア」公演、初演となる「毛皮のマリー/ニューヨーク公演」の写真（劇団正義長氏撮影）などによって、寺山修司のアメリカでの足跡を紹介していきます。



●「ヘア」ラ・マダム劇場の入り口(撮影) ●毛皮のマリー(1970年)

#### [4] アメリカ各地の映画館で活躍

引退後の脚書き生涯は、サンフランシスコ(1975年)、シカゴ(1975年)、ロサンゼルス(1978年)、ニューヨーク(1978年)などアメリカ各地の映画館で紹介され、各地の賞を受賞します。

また、ルーレイ・カリフォルニア大学(1970年)、ニューヨーク映画館(1978年)、トリッド映画館(1978年)などでは実際に脚本として自作映画の撮影も行っています。これは、少年時代に憧れたアメリカ映画への「自然による呼びかけ」ともいえる活動だったように思われます。

ここでは、アメリカ各地の映画館で映った資料などを展示してその活動ぶりをご紹介いたします。

#### [5] 「娘捕縛」、アメリカを刺す！



●「1993」娘を盗る作中場面

ヨーロッパでの活躍が多かった寺山修司と津路嘉郎、天井博雄でしたが、1980年5月、スバルート・フェイスティバル・BASC 参加し、ラウスカロイナ・チャールズトンで代表作「娘捕縛」を上演、高い評価を受けてニューヨーク・カフェ・ラ・マダムでも上演、ニューヨーク・ボストンほかで絶賛され、「グレンジャー」からはこの年の最優秀外国映画賞を受賞します。

こうして、寺山修司は、監督・父の執拗死・母との別れなど、少年時代以来の愛憎が交響する「アメリカ」を自分の芸術の力によって彫刻したのでした。1983年5月、その傑作の邦配の折にはニューヨーク・タイムズが編入りで造形師を賞賛し、カフ・ラ・マダム編で芸術映画賞が行われ、多くの人が「ジジヤマの死」を望んだといわれます。

ここでは「娘捕縛」ニューヨーク公演のビデオを中心に、「グレンジャー」最優秀賞受賞、「津路嘉郎の資料」などによってその活動ぶりを紹介していきます。